



**葉山空間  
アーティスト  
ギャラリー**

よって  
たか  
つて  
葉山  
な  
空間

2007.11.10 (土)  
~ 11.18 (日)  
10:00~16:00  
邸園文化交流館はやま  
旧中西進別荘  
(現ブルーミング中西葉山寮)



邸園文化圏再生構想

**HAYAMA ARTIST GALLERY**

information: 046-877-1225



## 01. 秋元 しゅうせい

1987年、インスピレーションが降り、ひょうたんスピーカー第1号が誕生。以降、たくさんのひょうたんスピーカーを開発、製作。「ひょうたん宇宙」と「人の意識に作用する音」の深い探求と研究を重ね、現在に至る。1955年、函館に生まれ、1976年から独学で油絵を始める。1987年にひょうたんスピーカー第1号が誕生。1988年の大吉展（葉山・一葉会ギャラリー）以降、数多くの展示作品。最近では2005年のひょうたんスピーカー回顧展（葉山芸術祭）がある。

## 02. 飯田 三代

1955年、兵庫県東経135度上に生まれる。1976～1985年、大阪にて銅版画制作。版画工房で銅版画教室。1985～1990年、東京にて絵画制作。1990～2000年、葉山町に移住。2000～現在、横須賀市秋谷在住。油絵、アクリル、ペンキ、紙、キャンバス、布、板、トタン等素材はいろいろです。役割は、進化と調和の宇宙根源意識の発掘、視覚担当。

## 03. 角辻 わかほ

植物タンニン鞣し牛革に絵を彫って染め、簡単な道具と手縫いで財布等の暮らしの物を作ります。生命を守ってきた皮=革独特の強さしなやかさは頼もしく、丁寧に使うほど艶を帯びやがて土へと朽ちてゆく過程に美を感じます。独学で始めた制作は'01年頃より本格的に。使い手との密なやりとりを大切に数多く注文製作をしてきましたが、'07年現在新たな展開を模索中。日々手に添うお守りのようなモノたちを提案したく。

## 04. 狩集 広洋

1959年大阪市生まれ、1998年からリアルな表現を求めて活動を続ける。2000年にK2東道頓堀倉庫の協力で約20,000枚のドローイング作品と2,000個の立体作品を発表、2003年は金沢文庫芸術祭の協力で200mライブペイントを5時間で敢行。道具を最小限にして、自己を減した表現を追求するため、作品は下描きなしで、そのほとんどが人の目の前で制作されている。イベント個展等多数。月1回のペースで全国を個展行脚している。

## 05. 佐藤 正治

ここ数年、写真は撮るものではなく何か大きな力によって撮らされているもので、振り返ってみると今まで撮られていたものは、“命(いのち)”そのものではなかったが・・・そしてこの素晴らしい気づきを与えてくれる“想い”に満ちた場所は、世界中のあちらこちらに存在しているのだろう。だから私はこの自然を、この地球を守り、ずっと宇宙とつながって生きていきたい。1951年 新潟県生まれ。

## 06. シキヤ ヒデモリ

1971年 沖縄・那覇市に生まれる。1998年より、静岡県下田市に暮らし、林業のお世話になるかわら、雨の日に海岸の漂着物をひろいはじめる。2004年より、葉山芸術祭において、漂着物で作った「顔」の発表の場を得る。2005年より、神奈川県横須賀市に居を移し、造園業のお世話になるかわら、雨の日に消極的かつアナログカルに製作活動を展開中。SLOWLY BUT SURELY.

## 07. 菅原 恵利子(手ぬぐい・りりん)

長年、映像制作会社で企業プロモーションビデオの演出や制作に携わってきました。これまでに「画面」という長方形の枠の中に世界を作ってきたわけですが、これからは手ぬぐいの枠の中にも表現していきたいと思っています。シンプルでミニマムな和風な暮らしをしています。世界が狭くなり、地球の資源を浪費しつつある今だからこそ、“和”の知恵を広めていけたら素敵だなあと 생각합니다。

## 08. 辻 一高(KAZZ)

20代をアメリカ、フランス、西アフリカで過ごす。西アフリカでドレッドロックたちとレゲエバンドを結成、現地のラジオ・TV・イベントへの出演、西アフリカツアーなどをしながら2年間在住。葉山に移り住んでからアコースティックに目覚めソロ活動を始め、国内外で演奏。アコースティックギターのオリジナル曲を中心にジェンベやカリンバ、トーキングドラム、口琴などを自ら演奏し、多重演奏する。

## 09. 出口 雄大

1962年 鎌倉生まれ。1986年 『午後は女王陛下の紅茶を』（出口保夫著／東京書籍）でイラストレーターとしてデビュー。以来、挿画、装丁、広告イラストレーションなど多数の仕事をしてける。代表作として『イギリス四季曆』『四季の英国紅茶』『ロンドンの小さな旅』（東京書籍／中公文庫）『宮澤賢治のレストラン』『宮澤賢治のお菓子な国』（平凡社）など。現在、早稲田大学オープンカレッジで水彩講座講師を務める。2007年8月、『水彩学 よく学びよく描くために』（東京書籍）を上梓。

アーティスト在廊スケジュールや突発ライブ、ワークショップなどは「葉山空間」でお知らせします。  
URL:<http://www.kanshin.jp/hayama/>



**邸園文化圏再生構想とは**  
神奈川県は、相模湾沿岸地域一帯の地域資源である歴史的な別荘、邸宅・庭園(以下「邸園」という)等を地域住民と来訪者が多彩に交流し、新しい湘南文化を創造し発信する場として保全活用する「邸園文化圏再生構想」を進めています。

**邸園文化交流館とは**  
邸園の価値の普及と啓発、邸園文化を創造・発信するために、NPO等と邸園所有者と神奈川県が協働して、邸園の公開と運営を行い、邸園の新しい保全活用方策を検証する実験事業です。

# 葉山空間 アーティスト ギャラリー

● ● ●

2007.11.10sat - 11.18sun

ネットショップである「葉山空間SHOP」に集う葉山在住アーティストが中心となり、いつものバーチャルな空間からリアルな葉山の別荘空間に飛び出して、ユニークで濃密な葉山空間を作ります。あんな所やこんな隙間まで、アーティストそれぞれが自分の好きな場所を使って作品を展示します。写真・絵画・音楽・テキスタイル・造形物、そしてライブなナニカが展開します。だから、葉山で暮らす彼らがどんな作品を生み出し活動しているのか、ここに来れば分かります。もちろん「交流館」ですから、アーティスト達とたっぷり直接交流して、葉山らしい彼らのライフスタイルも感じてください。



会場  
邸園文化交流館はやま  
旧中西進別荘  
(現ブルーミング中西葉山寮)

主催  
NPO法人葉山環境文化デザイン集団

共催  
神奈川県  
(都市整備公園課都市公園計画班)

協力  
ポトマック株式会社  
ブルーミング中西株式会社

後援  
葉山町

問い合わせ先  
ポトマック株式会社  
tel. 046-877-1225  
mobile. 090-5889-7020  
e-mail. hori@potomac.com

葉山空間  
<http://www.kanshin.jp/hayama/>

葉山空間SHOP  
<http://www.hayama-shop.com>

## 10. 中川 彩香(Conejo)

多摩美術大学テキスタイル専攻卒業 パンタンデザイン研究所講師  
布にアクリルペイント+マシン刺繍で様々なモノを創り出しています。  
イラストレーション、バッグ、小物、オブジェ等様々なモノ創りをしています。  
Conejo(コネホ)とはスペイン語でウサギの意味。(2002年から始めたオリジナル商品のブランド)葉山空間ショップ、個展や展示の際にのみ販売しております。  
<http://www.ayaka-conejo.net>

## 11. 仁礼 博

世界各地のミュージシャンを中心としたアーティストらを主な被写体とするほか、海、南の島、仲間たちとともに過ごす風景など、心が動いた「瞬間」を写真に切り取る写真家。写真集『ほほ日プレゼンツ』写真で深呼吸。仁礼博のたいじな思いで(ブルースインターアクションズ刊)では、こどもたちの自然な表情豊かなハダカレンジャーシリーズが人気。  
<http://www.1101.com/nirei/>; 写真連載を続投中!

## 12. ブルース・オズボーン

1980年の写真展「LA Fantasies」をきっかけに日本での活動を本格的に開始。1982年から始めたライフワークの「親子」写真は今年で25年。撮影した「親子」の数は1000組を超える。2003年より「7月の第4日曜日を親子の日」と呼びかけたソーシャルアクションに多数の共感を得、年々大きなイベントとして成長し続けている。写真展は、外国人特派員クラブ、金沢21世紀美術館、愛・地球博園内愛知児童総合センターなど、各地で開催。ミュージシャンや、ポートレート写真の撮影も多く、CFや広告写真の制作も数多い。2004年より葉山在住。葉山の美しい風景にインスパイアされ、数々の新作が誕生した。 <http://www.bruceosborn.com/>

## 13. 真喜志 祐子

1988年、逗子市に仕事場をもつ。彩色土器のランプやオブジェを多く作り、各地で個展を開催。器類は、用をふまえないながらも、土器作りの発想からくる自由で温かいカタチを常に目指しています。シーサーは十年くらい前に作りはじめてからやみつきに。同じ頃から葉山で開催している「シーサーワークショップ」も毎年たたくさんの方に楽しんでいただいています。

## 14. 真砂 秀朗

独自の音楽表現と共にビジュアルアートにおいて創作活動をしている「絵と音」のアーティスト。世界各地のネイティブカルチャーへの旅の体験と印象から自然と折りあうアートの原点にある感覚を、多くの絵や音の新たなサインとして生み出し、幅広く様々なメディアに提供している。

## 15. 真砂 三千代

一枚の布を縫うことにアジアの衣の原点をみつめ、日本古来の結ぶ・重ねる・ひねるなどの伝統的な着付けによる衣製作を手がけている。染織家とのコラボレーションによる作品の発表を含め、東南アジアの手織布でつくる衣ファオーガニックコットンの日常着「ライフアファ」主宰。

## 16. マルヤマ サチコ (mandi laut)

両親の影響を受け子どもの頃からモノ作りを始める。文化服装学院にて、ニットと洋裁を学ぶ。  
●1995年/かざり編みのラスト人形の「Tammy Series」を作り始める。  
●1997年/インドネシアのスマトラ島にて半野生オランウータンと出会い目と目が合った瞬間、ハートを貫かれる。  
●2004年/アジア熱帯雨林に住む 唯一の大型類人猿であるオランウータンを広く知ってもらう「ONE LOVE プロジェクト」活動開始。  
●2007年/絵本「manis」並びにmanisグッズ発売。

## 17. 宮司 信吾

1993年よりフリーフォトグラファーとして活動を始め、広告や出版の仕事のかたわら自分の作品を制作している。「しあわせな瞬間」が写真活動のテーマで、「海」「人」「食」「旅」を通して追求中。数ある作品テーマの中で「犬と飼主」は2001年ドイツ・ベルリンでの展示を皮切りに各地で個展を多数開催。葉山の夏の海の家「海小屋」では毎年作品を発表。「しあわせな瞬間」の写真を見た人がハッピーになる事が最高の喜び。1997年より葉山に住む。写真を撮り始めた頃の気持ちを忘れずにこれからも旅をして写真を撮り続ける予定。

## 18. 矢谷 左知子

同じ風土のなかで共に生息する植物、そこに自生している草を素材に布をつくること、その力強い生命力ゆえ、迷惑がられ打ち捨てられていく雑草である意、芋麻などを刈り採りいただき、糸にして布を織ること、周りで拾い集めた木の葉や葉っぱで糸を染めること。すぐそばの、そこに在るものでつくる、何万年も続いて来たそのような営みをひよ、と、継いでみたい。草の周辺でしっかり生きている多様な小さな生き物たちも見つめていながら。そんな気持ちで草の布を織りつつ、この時代の草文化を探る日々です。



※ 当館は閑静な住宅地の中にあり、駐車場もございません。公共交通機関を利用し周囲に迷惑とならないようお願い致します。